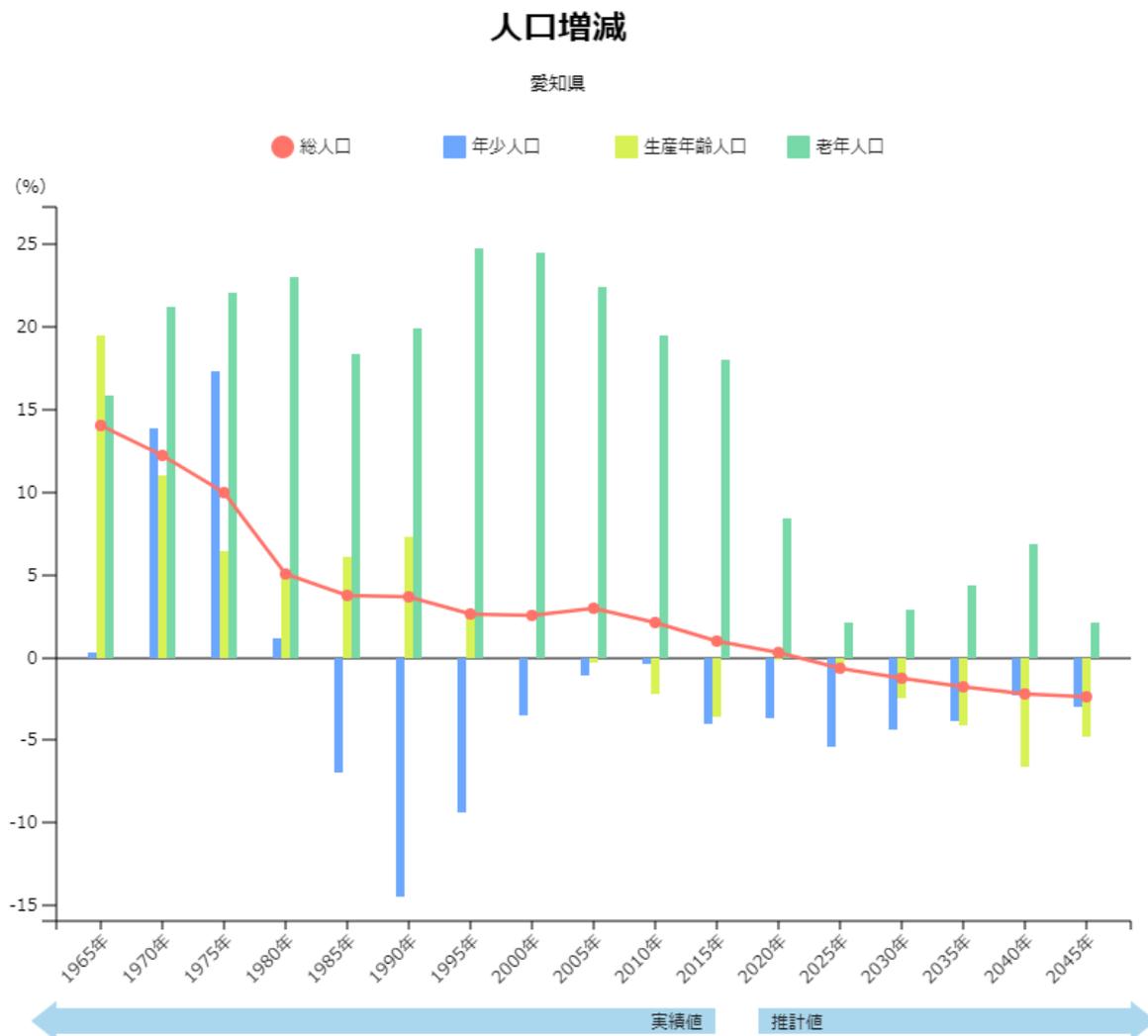


殺処分ゼロの世界を目指して

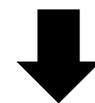
# Maison de chat (ネコの家)

# RESASで分かったこと①

## <愛知県 人口増減>



2020年過ぎから総人口が減っていき、特に生産年齢人口の減少が2040年に向けて大きくなっていく。



人口減に伴い、**空き家、空室**が増えていき、不動産オーナーが厳しい状況になることが考えられる。

# V-RESASで分かったこと②

## <愛知県 宿泊者分析>

宿泊者分類の2019年同月比の推移

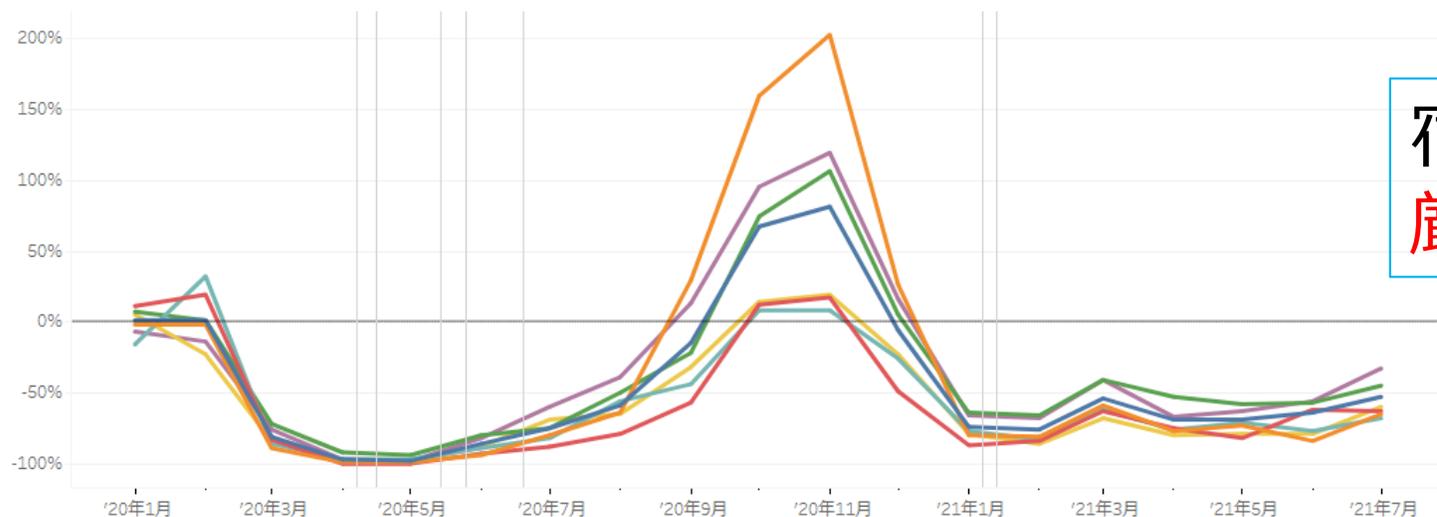
2020年1月1日～2021年7月31日

エリア

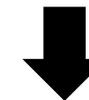
愛知県全体

宿泊者の分類:

- すべての宿泊者の分類
- 女性グループ
- 一人
- 夫婦、カップル(男女二人含む)
- 子ども連れ(子ども=13歳未満)
- 男性グループ
- 男女グループ(13歳以上子ども含む)



2019年同月比で10月～11月を除けば大きく減少している。



宿泊業（ホテル、旅館）は厳しい状況にあると考えられる

RESASとV-RESASの分析結果から、  
空室対策や宿泊業に課題があると考えた

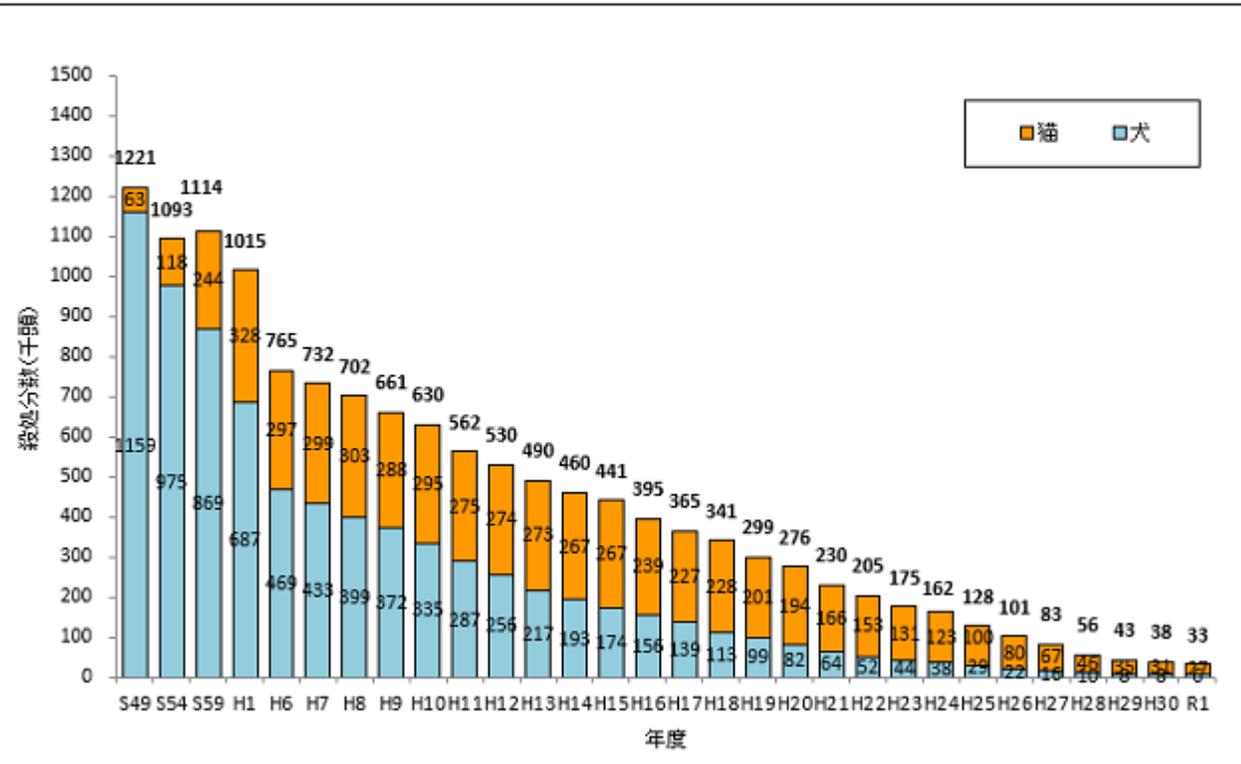
**何の数字かわかりますか？**

**2 7 , 1 0 8**



# 令和元年、殺処分された猫の数

全国の犬・猫の殺処分数の推移



■ (参考) 平成16～令和元年度の犬・猫の引取り及び処分の状況

年度	犬			猫			合計		
	引取り数	処分数		引取り数	処分数		引取り数	処分数	
		返還・譲渡数	殺処分数		返還・譲渡数	殺処分数		返還・譲渡数	殺処分数
平成16年度	181,167	25,297	155,870	237,246	4,026	238,929	418,413	29,323	394,799
平成17年度	163,578	24,979	138,599	228,654	3,936	226,702	392,232	28,915	365,301
平成18年度	142,110	28,942	112,690	232,050	4,427	228,373	374,160	33,369	341,063
平成19年度	129,937	29,942	98,556	206,412	6,179	200,760	336,349	36,121	299,316
平成20年度	113,488	32,774	82,464	201,619	8,311	193,748	315,107	41,085	276,212
平成21年度	93,807	32,944	64,061	177,785	10,621	165,771	271,592	43,565	229,832
平成22年度	85,166	33,464	51,964	164,308	11,876	152,729	249,474	45,340	204,693
平成23年度	77,805	34,282	43,606	143,195	12,680	131,136	221,000	46,962	174,742
平成24年度	71,643	33,269	38,447	137,745	14,858	123,400	209,388	48,127	161,847
平成25年度	60,811	32,092	28,570	115,484	16,320	99,671	176,295	48,412	128,241
平成26年度	53,173	31,625	21,593	97,922	18,592	79,745	151,095	50,217	101,338
平成27年度	46,649	29,637	15,811	90,075	23,037	67,091	136,724	52,674	82,902
平成28年度	41,175	30,500	10,424	72,624	26,886	45,574	113,799	57,386	55,998
平成29年度	38,511	29,955	8,362	62,137	26,967	34,854	100,648	56,922	43,216
平成30年度	35,535	28,032	7,687	56,404	25,634	30,757	91,939	53,666	38,444
令和元年度	32,555	27,126	5,635	53,342	25,941	27,108	85,897	53,067	32,743

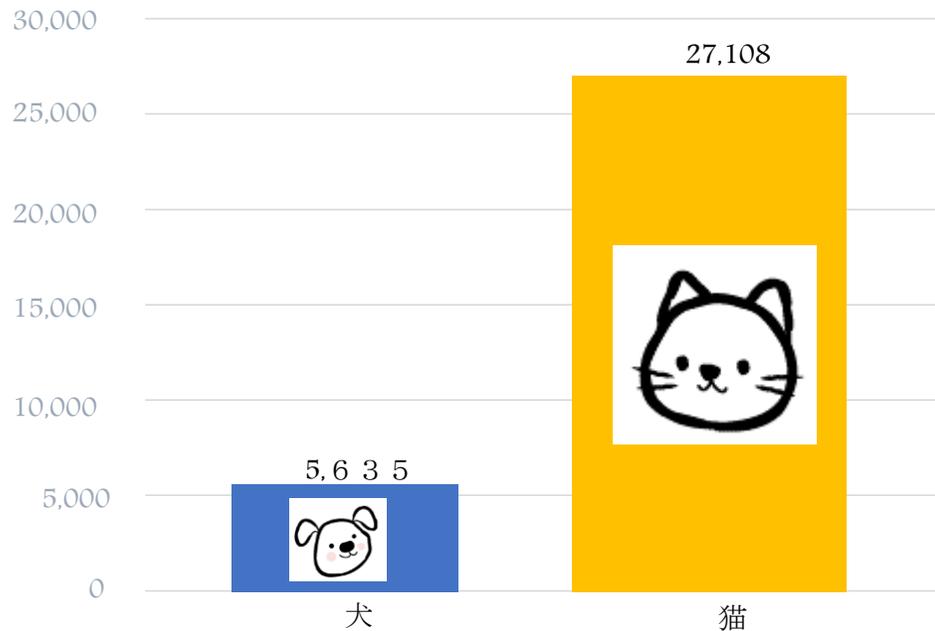
環境省自然環境局 総務課 動物愛護管理室データ

平成16年 238,929 ⇒ 令和元年 27,108 15年で88.7%減少。  
それでもまだ3万近い猫の命が毎年奪われている

# 猫の殺処分数は犬の5倍

犬・猫の殺処分数比較

2019年4月1日～2020年3月31日



※環境省の統計資料をもとに作成

猫は**個体数の多さ**と**譲渡の難易度**が問題となっている。

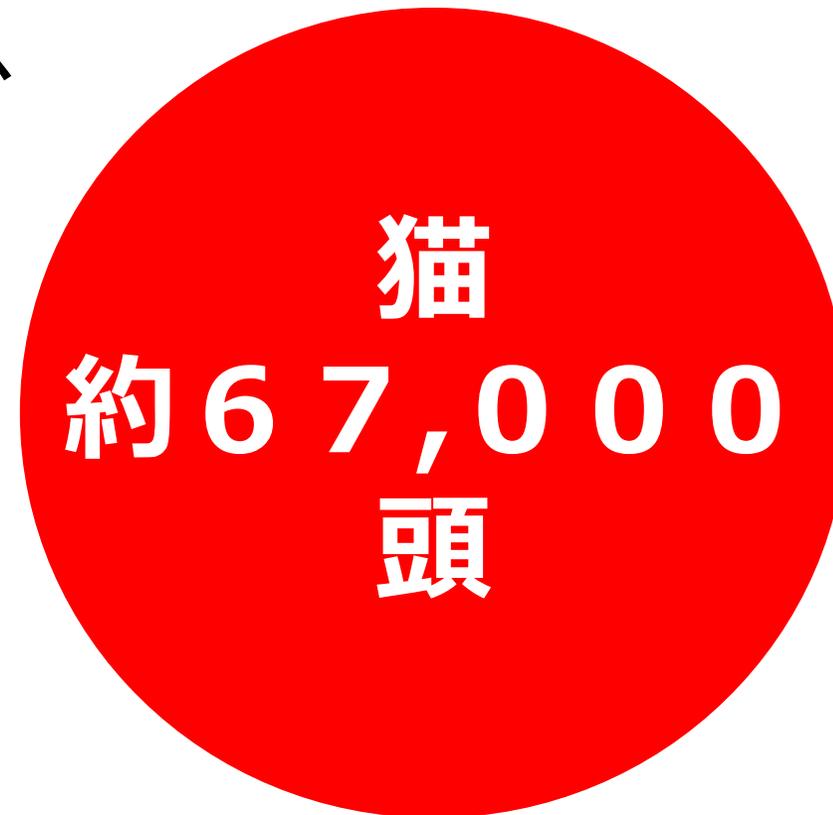
猫は、どこの街にも野良猫（地域ネコ）がいる。猫は生後5～6ヶ月で性成熟し、交尾排卵のため高確率で妊娠し、一度の出産で4～6頭は産むためネズミ算式に増加する。



# 新型コロナウイルスによる影響

## 在宅期間が長くなったことでペットブームが到来

2020年に新しく飼われたペットの数  
コロナ前の19年と比べて、



増加

## いざ飼ってみると・・・

- ◇ 思った以上に**手間もお金**もかかる
  - ◇ 臭いや**鳴き声**が気になる
  - ◇ すぐに**大き**くなって可愛くなくなった
- 飼ってみてから起こる問題も多い

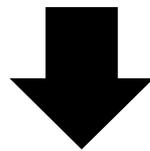


「飼ってしまえば何とかなるだろう」と事前に調べることもなく、安易に飼い始める人も。意識調査で「**ペットを飼って後悔したことはありますか？**」の質問に対して「はい」「少しある」と回答した人は**15%**というデータがある。

# 新たに出てきた問題



コロナ禍におけるペットブーム



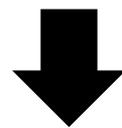
安易な購入による**トラブルも増加**

飼う側だけではなく、利益を重視し十分な説明を行わないまま販売する店側にも問題があると考えられる。

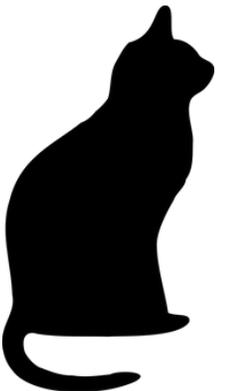
# 日本が抱える課題①

## 安易に購入できる環境

- ペットコーナーで**陳列生体販売**がされている
- **子猫、子犬で販売**するため可愛さで飼ってしまう人が多い
- 飼う側の**環境の審査**などなく、簡単に売られてしまう。



飼育放棄や売れ残ったペットなど多くの命が犠牲となる結果に





## 日本の抱える課題②

### ◆日本の法整備は遅れている

- ・2019年に法改正。マイクロチップの義務化は公布後3年以内の施行で、2022年の夏くらいから義務化が始まる  
⇒イギリス、ドイツ、オランダではすでに義務化されている

### ◆日本は一定の条件を満たせば誰でもブリーダーになれる

- ・ブリーダーは数を多く販売するために**買い手の予定もないのに大量繁殖**に取り組む可能性がある  
⇒動物愛護が進んだ国ではブリーダーは免許制  
⇒基本的には予約制の販売で、無理な繁殖を行わない

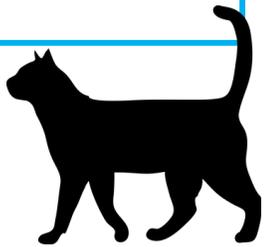
# 海外（ペット先進国ドイツ）の事例

ドイツでは「**ティアハイム（Tierheim）**」という各地で運営されている施設で、何らかの事情で手放されたペットや飼い主のいない動物が保護されている。保護された動物のほとんどが新しい**飼い主に引き取られ、その割合は9割を超える。**

動物の譲渡条件は厳しく、里親希望者は、散歩やトライアル、ティアハイムのスタッフによるカウンセリングなどを経て、新しい飼い主としてふさわしいことを認められた上で、譲り受けることができる

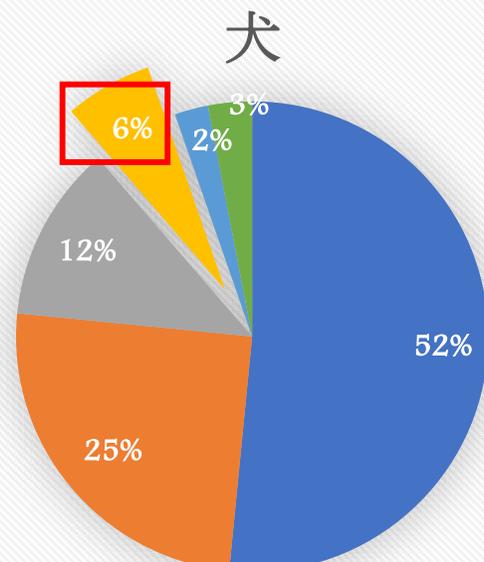


**殺処分ゼロの世界を実現**

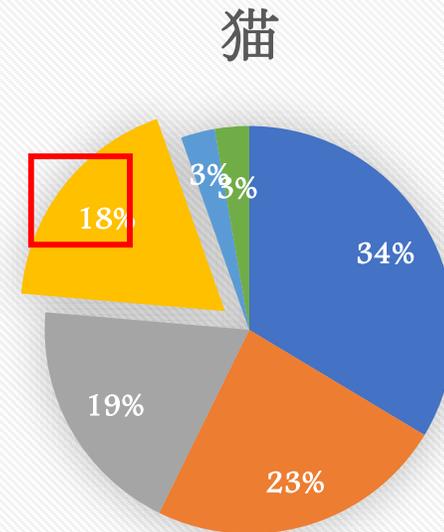


フランスも2024年～犬猫のペットショップでの販売が禁止に

# 日本におけるペットの入手方法



- ペットショップ・専門店
- ブリーダー
- 家族・知人より譲り受けた
- 保健所・保護施設からの譲渡
- 拾った・野生を飼いならした
- その他



- 拾った・野生を飼いならした
- 家族・知人より譲り受けた
- ペットショップ・専門店
- 保健所・保護施設からの譲渡
- ブリーダー
- その他

**保護施設・動物愛護センターからの譲渡は犬で6%、猫で約18%とまだまだマイナーな選択肢**

# 保護団体から入手するメリット

①

【しつけ】

保護団体による教育がされている

②

【健康管理】保

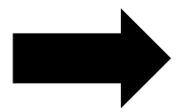
護団体によりチェック済み

③

【ステータス】

保護犬猫を飼うことで信頼度アップ

保護された犬猫は、トイレトレーニングや散歩、歯磨きなどの練習をする。多くの愛護団体は、二度と放棄されないように、**人との関係性が築ける状態になってから譲渡している**。ペットショップはしつけされていない状態なので、保護動物のほうが圧倒的に飼いやすい。欧米では、保護犬を飼うことが**ステータス**とされている。



**保護猫の良さを広めていきたい**

## 解決したい課題

「猫と暮らしたい」「保護猫を助けたい」。保護猫カフェや里親探しの団体が増え、ペットショップ以外で猫たちと出会える場所や機会は近年増えてきた。



### 保護猫を飼いたくても・・・

- ・肝心の「猫を飼える」場所が少ない
- ・飼ってみないと分からないことも多い
- ・トライアルにも準備とお金がかかる

譲渡の条件が厳しく、クリアできない人が多い

一緒に宿泊体験でハードルを乗り越えられるのでは

# ペットに関する調査&ヒアリング

- ★空室対策の効果的な手段として、近年、**ペット可物件**が注目されている。
- ★動物が好きで好意的な感情を持っているにも関わらずペットを飼っていないと答えた人のうち、**25.2%の人が住環境による制約**があることを挙げている。
- ★保護猫のボランティアをした際、トライアルまで至らない理由に「**色々と用意したにも関わらず、相性が合わずに飼わなくなる可能性がある**」といった回答が多くあった。
- ★「**犬・猫同伴で空の旅**」スターフライヤーが今年10月に検証フライトを行う等ペットは家族同然の存在として旅行業界を中心に各企業が注目し始めている。

## これらの背景から

RESASで発見した地域の課題と保護猫の問題を解決するアイデア

=

空室や宿泊施設の活用がポイント

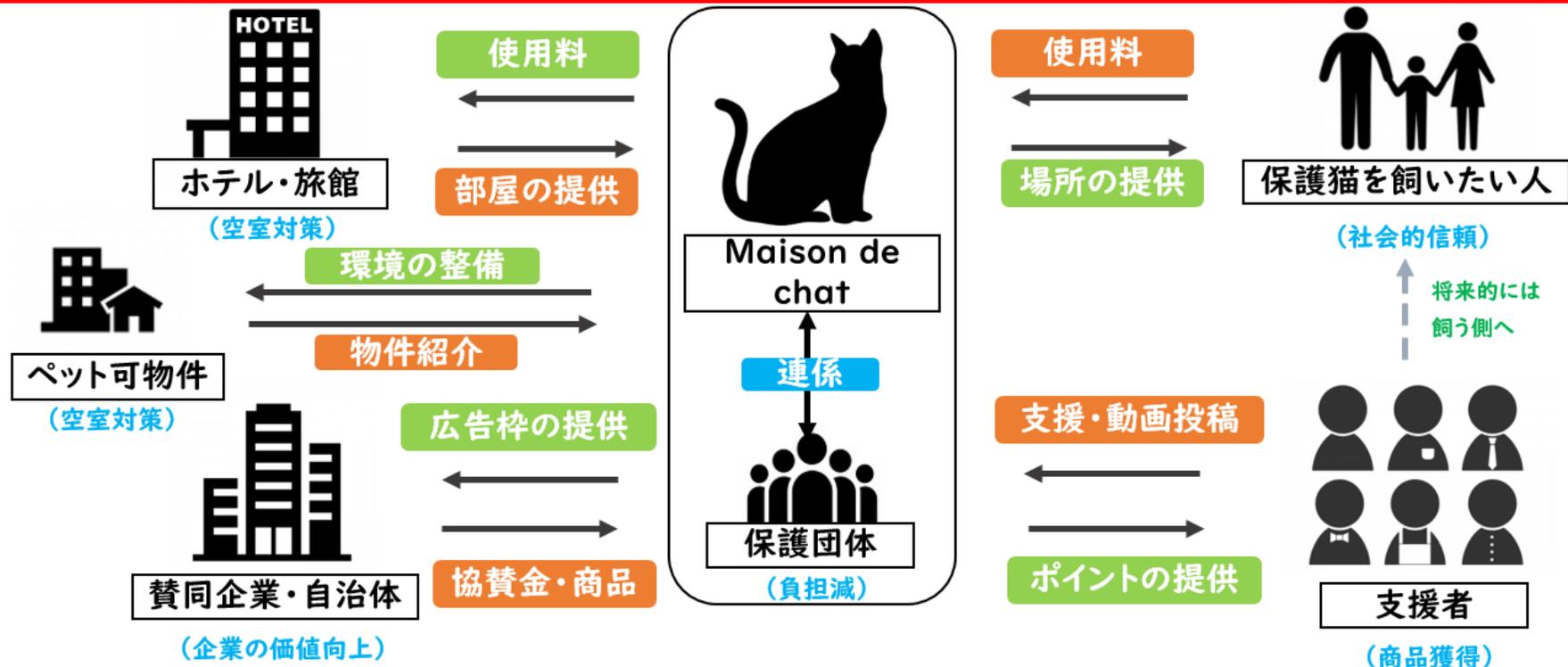
# 解決のために考えたアイデア

## 空き部屋×保護猫のデモ・トライアルの場の提供 + 学生の拡散力=新たなビジネスアイデア

- ◇ 新型コロナウイルスの影響で宿泊が減ったホテルや旅館の稼働率をアップ & 空き家等の空室対策へ
- ◇ デモ・トライアルを実施することで mismatches が減り 保護団体の負担も減らすことができる
- ◇ 保護猫を飼いたい人は宿泊体験で猫との相性や習性、必要なものが 大きな負担をかけることなく分かる
- ◇ PRは学生を中心に動画や画像をアップしてもらうことで 保護猫の良さを広めてもらう

# Business model

- ・新型コロナウイルスの影響で宿泊が減ったホテルや旅館、空室対策に困っているマンションの空室や空き家を有効活用してデモ・トライアル体験の場やペットと住む場所にする事で稼働率をアップ。デモ・トライアルの宿泊費は1回1万円想定。(うち半分を宿泊施設側に還元)
- ・ビジネスプランに賛同する企業や自治体は価値向上およびPRによる認知向上ができる 協賛金は月5万円～。
- ・保護猫を飼う人は厳しいハードルを乗り越えることで社会的な信頼を獲得できる。
- ・保護猫専門メディアの立上げ 高校生を中心とした学生による動画投稿で保護猫活動の啓蒙を行う。
- ・学生は動画のアップや保護活動をすることでポイントを獲得。ポイントを協賛企業商品などに換算できる





# 収支試算 (税込み)

(単位：千円／税込)

	0年目	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
宿泊利用場所①		5	10	20	30	50
利用頻度 (1か所あたり月) ②		4	4	5	5	6
年間稼働①×②×12 ③		240	480	1,200	1,800	3,600
<b>売上 (単位：千円)</b>		<b>1年目</b>	<b>2年目</b>	<b>3年目</b>	<b>4年目</b>	<b>5年目</b>
利用料 ③×1万円		2,400	4,800	12,000	18,000	36,000
協賛収入 (一口5万円)		500	1,000	2,000	3,000	5,000
売上計		2,900	4,900	14,000	21,000	41,000
<b>費用 (単位：千円)</b>	<b>0年目</b>	<b>1年目</b>	<b>2年目</b>	<b>3年目</b>	<b>4年目</b>	<b>5年目</b>
アプリ開発費用、管理費用	1,000	100	100	100	100	1,000
宿泊利用料③×5千円		1,200	2,400	6,000	9,000	18,000
諸経費 (工サ代含む)		500	900	2,000	3,000	5,000
広告費／販促費			100	1,000	2,000	3,000
人件費		500	1,000	2,000	3,000	10,000
<b>費用計</b>	<b>1,000</b>	<b>2,300</b>	<b>4,400</b>	<b>11,100</b>	<b>17,100</b>	<b>37,000</b>
<b>収支</b>	<b>-1,000</b>	<b>600</b>	<b>400</b>	<b>2,900</b>	<b>3,900</b>	<b>4,000</b>
<b>収支 (累計)</b>		<b>-400</b>	<b>0</b>	<b>2,900</b>	<b>6,800</b>	<b>10,800</b>

# 🐾 最後に～自身の体験から

私は今年の夏から保護猫活動のボランティアをはじめた。そこで保護猫の置かれている環境、譲渡の難しさを目の当たりにした。**新型コロナウイルスの影響でペットがブームになっている一方で飼育放棄も増えているという。私はこのビジネスプランを通じて、保護猫の良さをアピールするとともに、責任を持って飼育できる人がペットを飼い始めることができる環境、飼育者に責任を持ってペットを飼育してもらう環境を作りたい。そして、一つでも多くの命を救い殺処分ゼロの世界を実現したい。**

